第１９回市民自治推進委員会　産業躍動部会会議録

（敬称略）

◆ 開催日時：平成３０年１２月１３日（木）　１８時００分～

◆ 開催場所：アーニス２階会議室

◆ 出席部会員：部会長　　川田　弘教

副部会長　吉田　武史

 　　　　　　　部会員　　小川　昌宏

近井　一夫

　　　　　　　　　　　　 安達　陽子

　　　　　　　　　　　　 大澤　玲裕（協働推進庁内委員会副部会長）

【商工労政Ｇ総括主幹】

◆ 欠席部会員：部会員　　鈴木　高士

　　　　　　　　　　　　 宮下　裕次

森元　俊明（協働推進庁内委員会部会長）

【観光経済部次長】

◆ アドバイザー：　　　　荒川　昌伸

◆ 事務局：　　　　　笠井　康之【市民生活部市民協働グループ総括主幹】

塚崎　翔太【市民生活部市民協働グループ主任】

◆ 議題：ウオーキングツアーの問題点や、その改善等について

● 会議の要点

【料理教室について】

・１１月２６日（月）に料理教室を開催し、３８名の参加があった（半分以上は消費者協会の会員ではない一般の方）。

・秋鮭の山芋蒸しきのこバターポン酢がけなど４品を調理、地元の食材の普及啓発を図った。

・開始前に部会長が市民自治推進委員会や事業の目的等について説明した。

・今後に向けて、鮭を買える場所の案内など消費拡大につながる取り組みもできると尚良い。

・平成３１年度についても１万円の予算要求をしている。

【ウオーキングについて】

・ツアーの問題点及び改善策等について、次のとおり荒川氏の意見を加えた。

|  |  |
| --- | --- |
| 問題点等 | 改善策（案） |
| トイレがない | 相原商店を使わせていただけることとなった。自動販売機併設の休憩所としても利用可能。日程については事前調整のこと。地域の事情に詳しい相原氏の話も聞かせていただける（相原商店への謝礼が必要か） |
| リタイヤした人や負傷者への対応が必要 | 救護所的な活用について、相原商店に協力を求めるサポーター役を同行させる |
| ルーペで石を見てもよく分からない | 結晶の形など軟石の基礎知識を事前に教えておく、サンプルを渡す |
| 話を聞いているだけでは単調になる | 金槌で軟石を割る、アオノ産資や相原商店でピクニック（地域の特産品を味見）、石工の碑についてパワースポットと感じられる話をする、道中で軟石を見つけるなどの課題を与える、工学院の協力を得て化石林等をＡＲ（拡張現実）で再現、道中にある博物館等へ立ち寄る |
| 道の片側にしか歩道がない場所がある | 必ず歩道を歩くよう誘導する |
| 資料が持ちにくい | コンパクトな資料にする（Ａ４に収める）、首から下げられるようにする、ＱＲコードで資料を表示させる |
| おみやげがあると良い | 軟石の箸置き等を開発する（飲食店で活用？） |
| 思ったより長いコースだった（季節にもよる） | 実際にツアーを運用する中で改善を進める |
| 安政の道（安政の頃に使われていた、登別地区～登別温泉をつなぐ山道）を活用したい | 外国人はこのようなツアーが好きだが、現在は建物の立地などにより通れない箇所がある別コースとしての活用が考えられる |
| 今回の１３人は、定員としては多すぎた | 少人数の方が密なコミュニケーションが取れるが、やり方によっては対応可旅行会社の意見も聞くべき |
| 登別軟石は札幌軟石ほど注目・活用されていない | 札幌軟石に関心がある人をターゲットにすると多くの参加が見込める（登別軟石は、実は全道で使われている） |
| 作ったツアーをどう活用するか考える必要がある | 旅行会社へ提案をする、ガイドが直接客を募集する、インターネット上でマッチングを行う |

・次回、以前も話の出ていたゲートウェイセンターに来ていただいて、このコースが売り物になるか、旅行会社の目から見て改善すべき点はないか等を聞き取る。

・その次の回で、聞き取った内容をもとにどのようにツアーを改善するのか、またどのように役割分担をするのかを話し合う。

・次回までに事務局がゲートウェイセンターとの調整を行う。

・ＡＲ（拡張現実）の実現に向けては小川委員が工学院の専門の先生に相談する。

【次回について】

●ウオーキングツアーの問題点や、その改善等について（旅行会社からの意見の聞き取り）

日程：未定